

「教育実習を終えて」

[市立 J 中学校 数学] 氏名：K . T

私は、出身中学校で 3 年生の数学を担当しました。私が在学していた時から、数学はクラスを 2 つに分けて授業を行っており、1 クラスに対し数学担当の先生は 2 人いました。それらの授業はプリント学習で行われており、その共通プリントを使用することで大抵のことはクラス内で統一できるのでとても便利だと思いました。

私が授業を行うために授業用の共通プリントを作成した際、自分のプリントと指導教員の先生方が作成されたプリントのクォーリティーの差に圧倒されました。生徒から見れば指導教員の先生方も実習生の私も同じ先生であり、プリント作成に関しても同じ質で作成する必要があったのですが、思い通りに行きませんでした。

また、指導教員の先生と私で微妙な言い回しが異なっていることを、最初の授業見学のときに気付くことができませんでした。その結果 2 つのクラスで同じように授業を行っているつもりでも、言い回しが異なるために 1 つのクラスではわかってもらえたものの、もう一方のクラスでは全く通じないことがあり、とても大変でした。自分の授業内の言い回しを見直していく必要があると感じました。また、クラスによって指導法を大きく変える必要があると感じました。これに関しては分かっていたつもりでしたが、頭の中で考えていることが思うように行動に移せず、たくさん失敗しました。

これらの失敗を反省し、その失敗をどのように次へ活かすか、よりよい授業をするためには、どの様な工夫をすれば良いのかなどを考えるようにしました。指導教員の先生方の授業と自分の授業は何が違うのか、話し方、間の取り方、黒板の使い方等たくさんのが違います。指導教員の先生方との違いを授業見学させていただくなどして見つけたいと思います。最後に、私を担当して下さった 2 人の先生方には、大変お世話になりました。私が未熟である為に多くの迷惑をかけてしまったことが一番の心残りです。

今後教育実習を行う方に心得えておいてほしいのは、教育実習生を受け入れるということとは、教育実習校の義務ではなく、担当する先生方の仕事が増加するという事です。大学の授業だけでは学校の現状を知ることは難しいので、教育実習は実際の学校現場を知るとてもよい機会になります。しっかりと自分の目標を設定して実習を行うことが、自身の指導能力を向上させる近道だと思います。失敗を恐れるのではなく、今の立場でしかできないことを全力で行い、有意義な 2、3 週間にしてほしいと思います。